

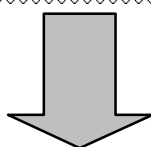
1. 敦賀市の将来像

1-1 都市の将来像

■第5次敦賀市総合計画将来都市像

【将来都市像】

『世界とふれあう港まち・魅力あふれる交流都市 敦賀』

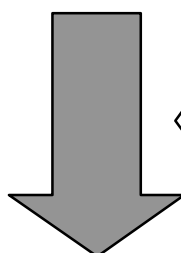


【基本目標】

- | |
|-------------------|
| ●人が集う、魅力ある都市づくり |
| ●快適に暮らせる都市づくり |
| ●ふれあいと温もりのある都市づくり |
| ●活力とにぎわいのある都市づくり |
| ●人を育み、文化を創る都市づくり |

■主な社会動向

- 日本海国土軸の形成
- 環日本海交流圏の拡充
- 個性的な都市環境の継承によるアイデンティティの高い地域形成
- 高齢社会の進展による長寿社会の成立
- 景気低迷による自立型産業基盤の形成
- 自然環境保全と都市型公害の防止



- ① 人口減少、超高齢社会
- ② 地球環境問題の深刻化
- ③ 財政的制約の高まり
- ④ 都市機能拡散からの転換

1. 基本理念

敦賀市は、豊かな自然と日本の文化・産業を支えた「港」を中心に歴史を築いてきたまちです。

この「港」が創り出してきた歴史を引き継ぎ、古事記で用いられているように本市の魅力が各地に「^{ももつた}百伝う」※81 ページ参照情報発信機能及び物流拠点機能の向上を図り、今後の国際化、情報化に対応した都市づくりに努めます。また、住民参加を基本として、豊かな自然環境の保全と環境負荷の低減に努め、活力と希望に満ち、安全で安心して快適に暮らせるまちづくりの推進により、すべての市民が誇りと愛着の持てる敦賀市を創造します。

2. 将来都市像

歴史と文化と交流の港まち つるが

『歴史』→敦賀は、天然の良港として古代から栄え港の歴史が息づいています。市民が港まち敦賀の歴史に誇りをもち、港との関わり合いを大切にしたまちづくりを進めていく必要があります。

『文化』→中心市街地の賑わいは、敦賀市の発展を示すバロメーターです。港まち敦賀の歴史文化といきいきとした新しい文化が融合し、楽しく歩けるまちづくりを進めていく必要があります。

『交流』→敦賀駅、敦賀港は人と人との出逢いがあり、市をイメージづける大切な場所です。これから進められる敦賀駅・敦賀港周辺都市拠点の再構築を契機として魅力ある交流の空間の整備を進めていく必要があります。

3. 都市づくりの目標

●躍動する交流都市

福井県嶺南や滋賀県北部の市町村、さらには関西圏・中京圏との連携を深めるとともに、環日本海時代の国際交流拠点にふさわしい都市機能の充実と風格をもった都市づくりを進めます。

そのため、本港地区及び敦賀駅周辺地区において、交流機能を持った新たな都市拠点を形成するとともに、交通条件の向上に向けた取り組みを行います。

●活力みなぎる産業都市

都市活力の中心的役割を担う産業の発展を目指し、本市のもつ拠点性を活用しながら産業の国際化、高度化および多角化を図るとともに、中心市街地においては、中心市街地活性化基本計画に基づいて魅力ある商業振興の促進や観光の振興を図り、活力と賑わいにあふれた都市づくりを進めます。

●魅力あふれる快適都市

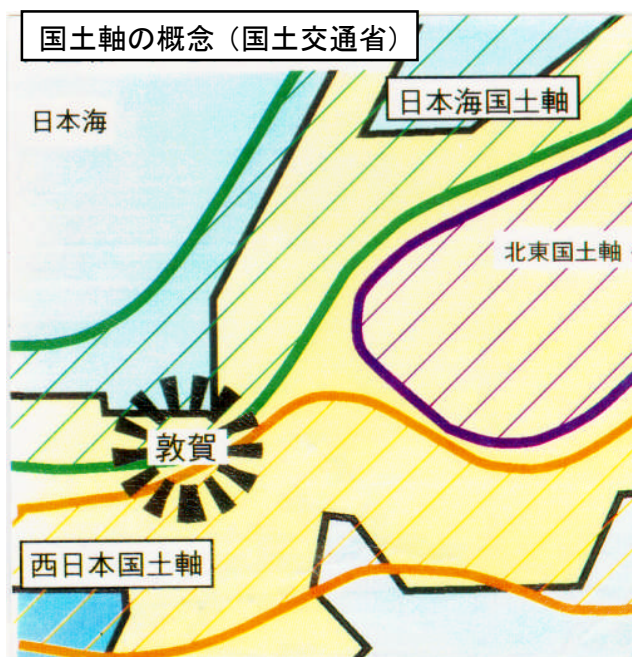
市民が安心して豊かな暮らしを送れるよう、防災対策に万全を期すとともに、良好な居住環境の創出と機能的な都市施設の配置に努めます。そのため、本市の持つ豊かな自然環境や歴史的遺産を保全、活用し風格と魅力あるまちづくりに努めます。

また、高齢社会において、誰もが安心して生涯を送れるよう、質の高い都市基盤の整備充実とともに、保健・医療・福祉のネットワークの確立や人にやさしい社会基盤の整備を図ります。

●自然にやさしい環境共生都市

海・山の豊かな自然環境に恵まれた都市であり、今後もこの貴重な資源を保全または有効に活用していくとともに、環境負荷の小さい、周辺の自然にやさしいコンパクトな都市づくりを進めます。

1-2 広域的にみた敦賀市の位置づけ



敦賀市の広域的な位置づけ

敦賀市の都市構造を検討するにあたり、まず、第5次敦賀市総合計画で述べられている本市の広域的な位置づけを整理すると以下に示す通りです。

「21世紀の国土のグランドデザイン」^{※81ページ参照}（五全総）によると、本市は、日本海国土軸上にあり、地理的条件、交通条件等からみて、西日本国土軸と日本海国土軸をつなぐ重要なポイントに位置しています。

また、本市の背後には、京阪神大都市圏と中部大都市圏が位置しており、両都市圏から環日本海地域（日本海側の地域）への交通の結節点となります。

さらに本市には、海・山といった良好な自然環境を有していることから、大都市圏から2時間圏内にあるリゾートとしての役割が求められています。

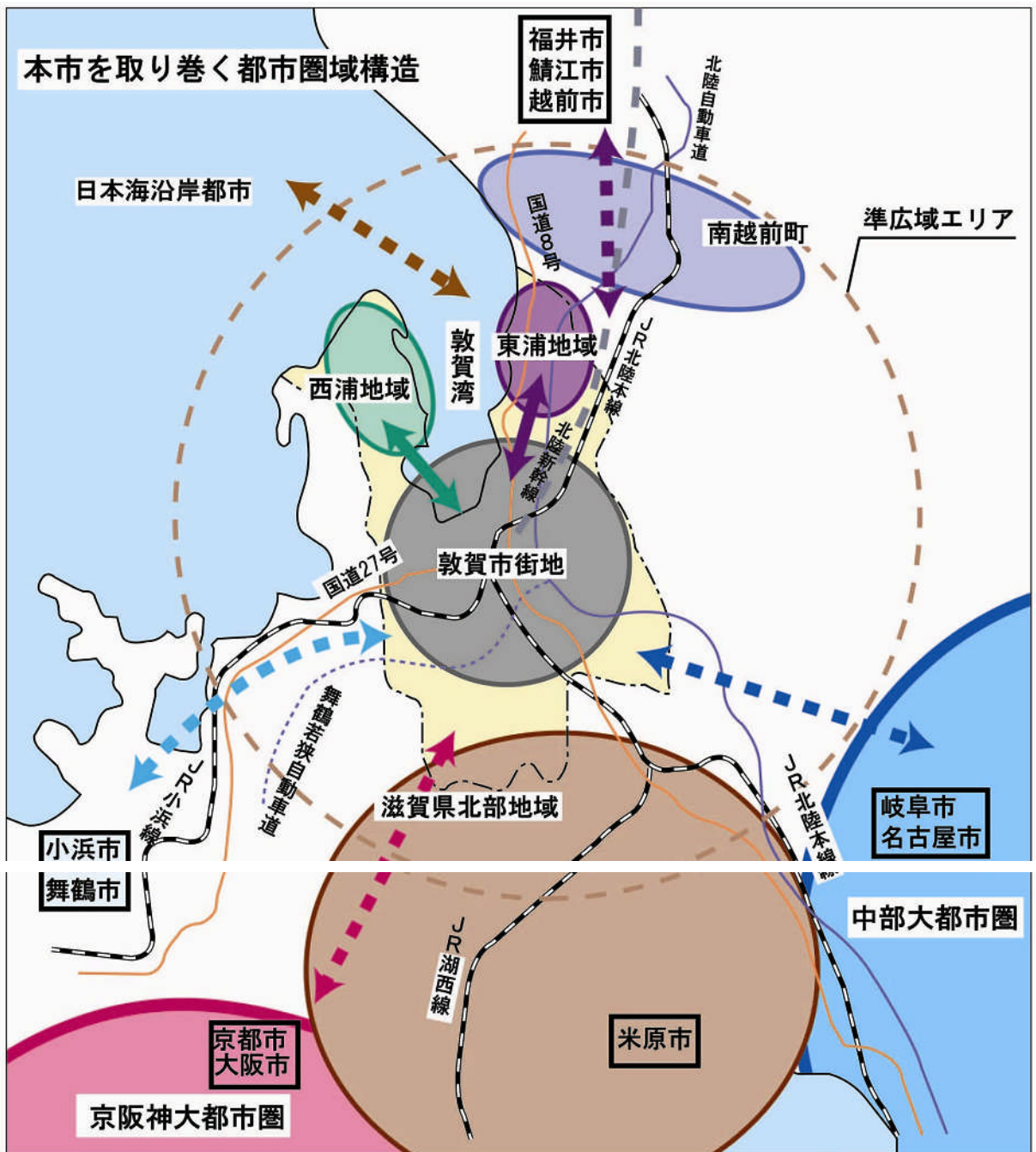
準広域的な位置づけ

道路網等の整備充実に伴い、スポーツ・レクリエーション・文化面における市民の行動範囲が拡大しつつあります。このような中で従来までの嶺南圏域にとどまらず、南越前町等北側及び滋賀県北部地域等まで視野を広げた計画づくりが必要となってきました。

敦賀市の役割

このような状況から、本市は、広域交流拠点都市となるにふさわしい都市機能の充実と風格を備えた都市づくりを進めることとしています。

さらに、本市の西浦地域や東浦地域においては、海・山の豊かな自然環境を生かした海浜公園や野外レクリエーション施設の整備に努めるとともに、観光サイン^{※80ページ参照}の整備等、自然・歴史資源や観光施設を結ぶ準広域的なエリアを視野に入れたネットワークづくりを進めることによって、地域の活性化と広域交流拠点の形成を目指します。



1-3 将来都市構造の基本的考え方

前述の広域的にみた敦賀市の位置づけを受け、市街地及びその周辺における将来都市構造を検討します。

その基本的な考え方として、計画的な整備を推進するために、市街地及びその周辺地域を拠点及びエリア（面）に区分するとともに、それを囲み、つなぐ役割を担う環境帯（線）により、構築していくものとします。

拠点地区は、今後、交流都市つるがの中心を担う重要な開発拠点として位置づけられ、敦賀駅周辺を中心とした都市拠点地区及び敦賀本港を中心とした港湾拠点地区の2地区が該当します。

エリアは、本市の活力の基盤を担うための産業関連エリア（5地区）と、快適都市としての定住基盤を担う居住関連エリア・保全系エリア（6地区）に区分します。

環境帯は、拠点地区及びエリアをネットワークし、居住環境の向上に寄与するとともに、市街地の発展に歯止めをかける役割を担うものであり、市街地縁辺部の環状緑地保全帯、敦賀港の海岸部を中心とした臨海環境整備帯、井の口川や笙の川等の河川空間の親水環境整備帯に区分します。また、貴重な生態系を保全するため、中池見湿地については自然環境保全エリアと位置付けます。

